

「授業における地域調査」刊行によせて

岐阜県高等学校教育研究会地理部会長

岐阜県立華陽フロンティア高等学校長

安 田 守

この自主研修グループは「地歴科目を学ぶ楽しさやおもしろさを生徒に伝えることができる授業の実践的研究」というテーマの下、「授業における学校周辺の地域調査」という方法で、前年度に引き続いて研究してまいりました。今年度は新たに、益田高、武義高、中津高、可児高、各務原西高、羽島北高、大垣桜高の地歴科目担当の各先生方で研修していただきました。

地理学・歴史学の学問的アプローチとして、文献調査研究とともにフィールドワーク(地域調査)のもつ重要性は申すまでもないことです。学習指導要領には「身近な生活文化や地域社会などに関わる主題を設定し追求する学習を通して、歴史への関心を高めるとともに、歴史的な見方や考え方を身につける」(日本史A)「直接的に調査できる地域の特色を多面的・多角的に調査して、日常の生活圏、行動圏の地域性を地誌的にとらえさせ(中略)地誌的にとらえる視点や方法を身につけさせる」(地理B)と記されております。

また、授業としての「地域調査」は、改革的な要素を持っております。教室を離れ、外の空気を吸うという開放的ななかで、「見る、聞く、書く」にプラスして「歩く、見つける、考える」の授業であること。飽くまでも生徒が主体であり、教師は生徒に興味や関心を持たせたり、考察させたり、調査のまとめや報告の場を設定する演出にまわる授業構図の転換が見られること。さらに、「地域調査」の授業では教師自らが「教科書」を作成し、場合によっては「地理」「歴史」といった科目の範囲を越える学習になることなどがあげられます。

昨今、「スローライフ」という言葉を耳にします。車社会という環境のなかで暮らしている私たちですが、いつもの道を歩いてみることで、思わぬ発見に驚くこともしばしばです。時代は歩くスピードの礼賛あるいは復権を少なからず叫んでいるのでしょう。

地域調査の重要さを述べてきましたが、準備や時間の確保、交通安全への配慮など実際には大変なことに相違ないと思います。しかし、一念発起して実践していただきたい。そして、この報告がその助けになることを願っております。

最後に、この報告は7校の先生方の協力によるものです。考えてみれば、「地域調査」そのものも教師、生徒、学校や地域の人々の輪(和)によって成立しております。今後も個々の結集をもって教育課題に取り組むことを願ってやみません。